



教職大学院便り

2026年9月5日発行 No.15
編集：教職実践研究科 1年 阿部

「話すたび、研究が動き出す。」



私は現在、「若手教員の同僚性」について研究を行っています。多様な経歴を持つ院生の仲間や先生方に研究の進捗を報告し、対話を重ねる「月間合同カンファレンス」は、私にとって貴重で刺激的な学びの場となっています。学校種や経験年数、専門性が異なるからこそ、多様な角度から温かいアドバイスや問いかけをいただくことができます。そこでの対話は、いつの間にか凝り固まっていた「思い込み」を心地よく解きほぐし、研究に新たな視点をもたらしてくれます。このような対話の場があるからこそ、独りよがりではない、生きた研究ができるのだと実感しています。

研究のまとめを見据える今、月間合同カンファレンスから得た新たな視点とエネルギーを糧に、実践や実践報告の執筆に全力で取り組んでいます。そして、研究の成果を学校現場へ還元し、福島の教育のさらなる充実に貢献していきたいと考えています。

ミドル・リーダー養成コース2年 原 悠太（現職派遣）

「月間合同カンファレンス」

月間合同カンファレンスは、年間を通じて毎月実施され、1・2年生及び教職実践研究科の教員全員が参加します。週間カンファレンスとは異なるメンバーから質問やコメントをもらうことで、研究を省察し、深化させていきます。5・6月の月間合同カンファレンスでは、1・2年生がそれぞれ自身の研究経過について報告をしました。7月には、教員や院生からの助言をもとに、今後の実践に向けた協議を行いました。



「前期の大学院生活をふり返って」

大学院では自身の研究と並行して授業も履修します。これまで大学で受けてきた講義型の授業とは異なり、対話的な活動が中心に行われます。「よい教育とは何か」「授業の見方とは」といった正解のない問いに対し、話し合いを重ねていきます。多忙な現場ではじっくり考えることが難しかったことに対して、一度立ち止まり、思考を深められるのが大学院の授業の魅力です。また、学部から進学したストレートマスターをはじめ、小・中・高校・特別支援学校の教員や養護教諭など、多様な立場の人との対話は、自身の教育に対する価値観を広げることに繋がりました。私が授業の中で特に印象的だったのは、「知ることの広がり」についてです。自分が理解している「既知の領域」のすぐ外側に「未知の領域」があり、さらにその外側には自分が意識すらしていなかった領域が広がっていることを学びました。わかることが増えるほど未知の課題も増えていくという奥深い学びを、存分に実感することができています。

授業デザインコース1年 関根 宙海（現職派遣）



講義「学校経営の理論と実際」



大熊町教育長のご講話



講義「授業デザインの理論と実際」



2026夏 ラウンドテーブル 開催報告

8月7日（金）、福島大学にて、「教育実践福島ラウンドテーブル」が開催されました。



「教育実践福島ラウンドテーブル」

ラウンドテーブルは、プロジェクト研究の一環として行われ、以下の3つのプロセスを通じて自分自身の教育観を見つめ直すことを目的としています。

「語り」による
自己省察

多世代・多角的視点
によるアップデート

「学び続けるコミュニティ」
への参画

【午前の部】



基調講演では、福島大学名誉教授の三浦浩喜先生より、「**これからの福島に求められる学びー震災から15年を経てー**」という演題でご講演いただきました。三春町の教育改革の歩みと、その背景にある理念についてのお話をいただきました。また、震災後の福島が抱えた教育上の課題と、その中で地域再生と新しい教育の道筋をどう見出すかということについてご示唆をいただきました。

【午後の部】

校種や職種などの垣根を超えた少人数グループで交流を行いました。報告者の実践事例をもとに、多様な立場の参加者がともに語り合い、学びを深める機会となりました。



● 次回のラウンドテーブルは、令和9年2月13日（土）開催予定です。詳細は福島大学教職大学院ホームページよりお知らせします。多くの方のご参加をお待ちしております。

「『報告者』として参加して得た気づき」



これまでラウンドテーブルは参加者として話を聴く側でしたが、今回始めて報告者としてラウンドテーブルに参加し、その貴重さを感じることができました。自分の課題意識を話し、それに対して様々な立場の方から多角的な意見をいただいたことで、聴く側以上の圧倒的充実感があり、次に生かしたいという改善意欲もとても高まりました。特に、幼稚園の先生からお話を聞き、子どもが本来持つ能力について考えさせられました。身の回りの事象に不思議さを感じたり、自分の興味のあることを探求したりといった理想の子どもの姿が幼稚園では日常的にあることを知り、自分の研究にどんな意義があるのかを問い直すきっかけになりました。4月からの4か月間、大学院での講義や合同カンファレンス、センター交流会などを経て進んできたように思えた研究内容でしたが、今回のラウンドテーブルで改めて自分の研究の目指したいところを考え、根本的な部分を整理し直すことが必要であるという気づきを得ることができました。今後は、研究の前提を再構築し、現場に還元できる実践を目指していきます。

授業デザインコース1年 村田 瑞葵（学部卒生）

教職大学院について詳しく知りたいときは…



▲ 教職大学院案内



▲ 入試情報

<お問い合わせ>

福島大学 人間発達文化学類 支援室

Mail : ningen@adb.fukushima-u.ac.jp

Tel : 024-548-8103

